



འབྲུག་རྒྱལ་ཁབ་

ブータン便り

2018年12月3日
第3号

クズザンポーラ！もう師走ですね。ブータンの日没時間も日に日に早まっています。16時には西の山に太陽が隠れてしまい、陽射しがなくなるとぐんと気温が下がります。冬季期間（11月から3月）、省庁や銀行は定時が17時から16時に繰り上げられ、人々は早々に家路につきます。

さて、11月19日にJICAドミトリーからアパートに引っ越し、同時に配属先での勤務も始まりました。その話は次号にまわし、今号では配属前の現地研修についてお伝えします。

ゾンカ語レッスン

ブータンの公用語はゾンカ語と英語です。チベット語系のゾンカ（“カ”は言語を意味する）は元々ブータン西部で話されていました。実際、ブータンには地域ごとに異なる言語が存在し、その数は20以上ともいわれています。ゾンカが国語として選ばれた今も、シャーチョップカ（東部）やローツァンカ（南部）といった言語の方が、地域によってはより通じるそうです。

学校教育には英語とゾンカ語が用いられており、ティンプーで会うブータン人は両方の言葉を上手に使いこなします。ゾンカ語の会話に英語が混ざったり、逆のパターンもあり、不思議な感覚を受けます。“ゾングリッシュ”という造語もあるようです。

現地研修では5日間のゾンカレッスンがありました。ゾンカ文字を短期間で覚えるのは難しいので、読み書きは習わず、話す聞くを中心に練習しました。基本的なあいさつや、数字の教え方、買い物に使う表現などを、実際に街に出て実践してみるというスタイル。露店や市場、巡礼者が集う仏塔などにいる人たちは、みんな親切に会話練習に応じてくれました。下手なりにゾンカで話しかけると、誰もが笑顔を返してくれます。うれしい瞬間です。



ブータンオリエンテーション

Institute for Management Studies Limited (IMS)という研修施設で、1週間のオリエンテーションプログラムに参加しました。私たち JICA ボランティアの3人（2018年度1次隊と2次隊）は、IMSでブータンの歴史や文化、地理、GNH（国民総幸福量）といった講座を受けるとともに、市内視察やエクスカーション（遠足）にも連れて行ってもらいました。ブータン伝統衣装ゴの着付け練習もありました。短期間でブータンについて集中的に学ぶことができ、またエクスカーションでは観光スポットをいくつも訪問したので、これから政府観光局に勤める自分にとって、とても有益な研修でした。

